

2019 年度実施概要

学校名

和歌山県立串本古座高等学校

採択活動名

「本州最南端まるごとキャンパス」未来のローカルリーダーの育成を目指して

取り組みの概要

本校では、2018 年度よりグローバルコースを中心に、上記目的を達成するため独自の学校設定科目を開講した。本年度からは、さらに深い学びとしていくため 3 学年において新たな学校設定科目を開講した。

本校の学校設定科目では共通して、海洋教育を柱として地域の教育資源を活用し、串本地域の良さや地域課題について体験を通して学べるような科目を設定している。授業内容は理科的な内容にとどまらず、串本に関する歴史や観光についても学び、地域活性化の可能性を探っている。串本の自然をよく観察し実際に触れながら教員だけではなく、専門家からも講義を受ける事で多くの学びの場を提供している。

「海洋環境」は理科で担当し、串本町近隣の研究施設から専門家に依頼し、施設見学及び学校での出前授業を実施する。和歌山県水産試験場、近畿大学水産研究所、串本海中公園、すさみ町立エビとカニ水族館、和歌山県東漁業協同組合、串本海上保安署による授業および見学や体験学習を行う。体験を重視し、研究施設での講義・実習や、自然観察を中心として串本を学ぶ。また、串本在住の貝類学会会員、化石の専門家にも協力を依頼し、本校周辺の海岸での生物採取や化石探し、海藻の分布など、身近な物から学べるような工夫している。串本の素晴らしさを感じることで地元を高校から活性化していくことを目的として、串本の海を色々な視点から学んだ。

「水産生物探究」は理科で担当し、串本の地域活性化・水産業を中心に学んだ。串本の観光業・水産業の実態や将来像、水産生物の基礎知識や養殖漁業について、近畿大学水産研究所や和歌山県水産試験場、すさみ町立エビとカニ水族館の専門家による講義を受けた。最終的に「海洋環境」「水産生物探究」の講座を学んだ中で、生徒自身が考えた串本地域についてさらに学びたい内容や地域活性化についてまとめた。

「南紀自然文化探求」は理科で担当し、和歌山県の紀南地方で新しく認定された南紀熊野ジオパークを学ぶことで、串本で起きたドラマチックな地球の活動や自然の作り出した地形を観察し、地形の成り立ちやそのダイナミックな地殻変動を学んだ。

活動中の写真



実施単元名 ※実施した単元の数に応じて記載してください

1. 海と地域を知る ～地元の魅力を見つける・串本地域の活性化を考える～
2. 海と地域をつなぐ ～串本地域の活性化をめざして～
3. 南紀のジオを学ぶ